

歯科衛生士 卒後研修プログラム

【研修の目的】

本研修の目的は、急性期病院において医療スタッフと良好な連携を構築した上で、歯科衛生士の専門的知識と技能を身につけ、将来指導者としても活躍できる歯科衛生士を育成することである。

【到達目標】

チーム医療を理解し、医療スタッフと円滑なコミュニケーションをはかることができる。

患者の病歴、病態を理解した上で、適切な口腔ケアの立案と実践ができる。

先進医療(口腔インプラント)に対する口腔ケアが実践できる

【行動目標】

(1)患者-歯科衛生士関係

患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立するために、

- 1) 病歴、病態、治療法などを正しく把握できる。
- 2) 患者の心理・社会的背景に配慮できる。
- 3) 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。

(2)チーム医療

- 1) 医療チームの構成員としての役割を理解し、他の医療スタッフと適切なコミュニケーションがとれる。
- 2) 医療チームと適切なタイミングでコンサルテーションができる。
- 3) 各種会議等への出席(症例検討会、カンファレンス、NST や摂食嚥下など)ができる。

(3)問題対応能力

患者の問題点を把握し、問題対応型の思考を行い、生涯自己学習の習慣を身に付けるために、

- 1) 臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への適応を判断できる。
- 2) 自己評価及び第三者による評価を踏まえた問題対応能力の改善ができる。
- 3) 臨床研究や治験の意義を理解し、研究や学会活動に関心を持つことができる。
- 4) 自己管理能力を身に付け、生涯にわたり歯科衛生士としての能力の向上に努める事ができる。
- 5) 不明な点については、自ら調べることができる。

(4)安全管理

患者及び医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身に付け、危機管理に参画するために、

- 1) 医療を行う際の安全確認の考え方を理解し、実施できる。
- 2) 医療事故防止及び事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる。
- 3) 院内感染対策(Standard Precautions を含む。)を理解し、実施できる。

(5) 症例呈示

チーム医療の実践と自己の臨床能力向上に不可欠な、症例呈示と意見交換を行うために、

- 1) 症例呈示と討論ができる。
- 2) 臨床症例に関するカンファレンスや学術集会に参加できる。
- 3) 学んだこと、経験したことをまとめてプレゼンテーションすることができる。
- 4) 自主的な学会、研究会、研修会へ参加できる。

(6) 医療の社会性

医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会に貢献するために、

- 1) 関連医療法規・制度を理解し、適切に行動できる。
- 2) 医の倫理、生命倫理について理解し、適切に行動できる。
- 3) 医薬品や医療用具による健康被害の発生防止について理解し、適切に行動できる。
- 4) 口腔ケアの普及、指導、啓蒙活動ができる。

(7) 口腔ケア

- 1) 外来、病棟、中央部門(ICU、化学療法部、手術室など)における診療補助と口腔ケアができる。
- 2) インプラント治療を理解し、診療補助とインプラント治療時の口腔ケアができる。
- 3) 周術期管理を理解し、口腔ケアができる。
- 4) 癌患者の心理を理解し、口腔ケアができる。
- 5) がん化学療法の副作用について理解できる。
- 6) 緩和ケアを理解できる。
- 7) BLS を実践できる。
- 8) 採血ができる。

【研修後】

研修終了者に対しては、病院長より「研修修了証」を発行する。

本研修は、本人の知識や技術を身につけるものであり、就職を保証するものではない。